

本年 7 月の藏内会長の活動をご紹介します

藏内会長は本年 4 月に世界獣医師会の会長に就任し，5 月には早速，世界獣医師会の会長としてパリで開催された WOA の総会に参加するなどの活動を開始したことを先日このコーナーでご紹介しました。

今月は，世界獣医師会会長，そして日本獣医師会会長として 7 月に開催された米国獣医師会 (AVMA) の代表者会議に招待され参加するとともに，新体制下で初となる世界獣医師会の評議員会に議長として参加されましたので，その様子をご紹介します。

■ 米国獣医師会 (AVMA) 大会

今年の米国獣医師会大会は米国のアナハイム・コンベンションセンターで 7 月 10 日 (金) から 14 日 (火) にかけて開催されました。米国各州の代表者による代表者会議は，大会初日に当たる 7 月 10 日の朝 9 時から，隣接するヒルトンアナハイムホテル内のホールで行われました。

藏内会長は海外からの来賓による挨拶のいちばん最後，9 番目の登壇者となり，世界獣医師会と日本獣医師会の両方の会長として挨拶を行い，世界獣医師会会長の立場から改めてワンヘルスの重要性を訴えるとともに，日本獣医師会の会長として長年に渡る両国獣医師会間の友情と信頼への感

謝を示すなど，大きな存在感を示しました。

同会議における藏内会長の挨拶はこれで連続 5 回目となり，ベイリー会長や，ジャネット CEO をはじめとした米国獣医師会の幹部の皆様や，各州代表者の皆様など多くの参加者から温かく迎えられました。

なお，AVMA の会員数は 2025 年現在，約 11 万 1,000 人だそうで，2026 年にはさらに 2,000 人ほど増やすことを目標としています。

また，2025 年は約 400 万ドル (約 6.4 億円) の投資利益をあげていましたが，昨今の国際情勢もあり，2026 年の運用は 14 万ドル (約 2,200 万円) の赤字が見込まれているそうです。

これにより，全体として 4,700 万ドル (約 7.5



写真 1 及び 2：会場となったアナハイム・コンベンションセンターとスピーチの様子



写真 3：米国獣医師会のベイリー会長（中央右）、WVA の
ジョン前会長（中央左）、ナシール次期会長（左）と



写真 4 WVA 評議員会の様子

億円）ほど執行が超過し、内部留保は 10% 減少
する見込みとのことでした。

■ ■ ■ 世界獣医師会（WVA）評議員会

この米国獣医師会大会に合わせ、7 月 12 日
（日）、13 日（月）の両日には世界獣医師会の評
議員会が開催されました。世界獣医師会の評議員
会は会長が座長を務めることとされていますので、
藏内会長は座長としてこの評議員会の議事進
行を担うことになりました。

1 日目の 7 月 12 日（日）は、午後 1 時から
午後 5 時まで、ホテル内の会議室に缶詰となり
評議員会に臨みました。世界中から集まった 14
名の評議員が参加するなか（残念ながら 3 名欠
席でした）、藏内会長は会長としての活動報告を
行うとともに、議長として議事を進行し、新体制
下での船出を果たしました。

2 日目の 7 月 13 日（月）は朝 9 時から昼食を
はさみ午後 5 時まで、初日と同じ会議室にて評
議員会を実施し、藏内会長は引き続き議長を務め
られました。

予め共有されていた、人事や会員承認などを主
とする議事のほか、ジョン・デヨン前会長の提案
により世界獣医師会の規定全般を見直すための委
員会を立ち上げることが決定するとともに、アジ
ア地域の担当であるガノコン委員の提案により、

獣医師のメンタルヘルスについて世界獣医師会と
しての考え方を示すことが提案されるなど活発な
議論が行われました。

最後には委員ひとりひとりから感想が述べら
れ、多くの感謝の言葉と今後に向けた決意表明が
あり、無事 2 日間の会議は終了しました。

今回は会議終了当日の深夜便で帰国すること
になったため、ホテル隣のレストランで夕食をと
り、午後 9 時 30 分ごろ空港に向けて出発しまし
た。予定通り 25 時 20 分にロサンゼルス空港を
発ち、約 11 時間のフライトと日付変更線の通
過を経て、7 月 15 日（水）の朝 5 時に羽田空港
に無事到着しました。

いかがでしょう。WVA 会長としての藏内会長
の取組を少し具体的に感じていただけたでしょ
うか。WVA の取組に関心をいただけましたら、ぜ
ひホームページなども覗いてみてください。ま
た、将来的にアジア地域の評議員への立候補や、
専門家としての参画などをご検討いただける場
合はぜひ日本獣医師会までご相談をいただけます
と幸いです。

こうした取組を通じた情報発信などにより、日
本、そして世界の獣医師が果たす役割の重要性が
より広く理解され、獣医師の社会的地位の向上に
も繋がることを願っております。